

交野市教委ニュース

第 153 号（令和 4 年 3 月 30 日発行）



ENGLISH



Presentation Contest



in Katano

英語
プレゼンテーション
コンテスト

令和 4 年 3 月 21 日（月・祝）に「English Presentation Contest in Katano - 交野市英語プレゼンテーションコンテスト - 」を開催いたしました。

今年度は、関西外国語大学のご協力をいただき、御殿山キャンパス・グローバルタウンの谷本ホールでの開催となりました。たくさんの方にご来場いただき、子どもたちのプレゼンテーションをあたたかく見守っていただきました。

交野市内の小学生 10 組（14 名）、中学生 8 組（15 名）が参加し、自分の好きなことや将来の夢、学校生活のこと、これまでに経験したこと、調べたことなど、“伝えたいこと”を英語でプレゼンテーションしました。

よりよく伝わるように

11 月にオリエンテーションを実施してから、参加者たちは原稿作り、写真や動画・グラフ・音楽を活用したプレゼン資料の作成、そしてプレゼン練習を行ってきました。

練習会では、プレゼンの内容がよりよく伝わるように、表情・声の大きさ・話す速さ・アイデリバリー（聞く人を見ること）・ジェスチャーなどに気をつけて練習しました。ALT からは英文作成や発音、ジェスチャー等のアドバイスを受けながら、自分たちが伝えたいことを表現するために、歌をうたったり、踊りを取り入れたり、小道具を作ったりするなど、創意工夫しました。

当初予定していた 1 月開催が 3 月に延期となりましたが、参加者たちは気持ちを切らすことなく、練習を重ね、そのたびに上達していきました。

本番の参加者たちは、緊張の様子が見られましたが、いざ舞台に立てば堂々としており、楽しみながらプレゼンテーションをする様子がありました。発表後、舞台から戻ってくる参加者は皆達成感が感じられたようでした。

失敗は恥ずかしいことではない！コンテストを楽しむこと

黒田市長の開会挨拶では、まず本番まで努力をしてきた子どもたちに向けて、その努力を称える言葉が送られました。

そして、「集中して発表すること」「失敗は恥ずかしいことではないこと」「ほかの発表者のプレゼンテーションを聞くこと」「コンテストを楽しむこと」の 4 つのポイントが伝えられました。

小学生の部

岩船小学校 3年 奥 遥嘉 さん
6年 奥 瑞稀 さん

『アメリカと日本の小学校のちがい』

アメリカ合衆国カリフォルニア州に5年間住んでいた私たち（姉・瑞稀、弟・遥嘉）が、小学校での授業や教室、成績の付け方など、日本とのちがいについて発表しました。



郡津小学校 6年 新井 愛理 さん
6年 谷 きらり さん

『Great 6 years』

私たちはこの春、小学校を卒業しました。6年間のなかで楽しい思い出がたくさんできました。思い出を振り返りながら発表しました。



私市小学校 5年 勝岡 絆大 さん
5年 土川 涼史郎 さん

『僕たちの学校』

僕たちがとても楽しく通っている私市小学校のよいところや自慢できるところをみなさんに知ってもらいたくて、クラスのことや先生のこと、運動場のいいところを発表しました。



長宝寺小学校 6年 鹿島 沙桃 さん
『私のクラス』

私のクラスは面白く、とっても明るいクラスだということを、クラスの面白いエピソードやふだんのエピソードなどをもとに紹介しました。



藤が尾小学校 5年 浦上 愛陽来 さん
5年 大橋 依奈 さん
『楽しかった林間』

私たちは10月27日から28日に滋賀県のマキノ高原へ林間学舎に行ってきました。今までの学校生活の中で1番楽しかった行事なので、どんな経験をしたのか、私たちの思い出をふり振り返りながら伝えました。



妙見坂小学校 3年 山本 菜央 さん
『Kicking over the high bar』

さか上がりができなくて、くやしくて練習しました。みんなに応援してもらって、コツコツ努力して、できるようになりました。みなさんも、今できないことでも、努力したらできるようになることを伝えました。



倉治小学校 5年 中井 咲花 さん
『Do you know HAE?』

自分の持っているHAEという病気について、どんな病気なのか、自分の経験をもとに伝えました。この病気をより多くの人に知ってもらいたいという思いを伝えました。



旭小学校 5年 高林 遥 さん
『My favorite country』

私はある国が大好きです。その国が好きな4つの理由（言語、料理、アンティーク、スーパー）と、将来その国で何をしたいかを伝えました。



星田小学校 3年 清水 舞莉 さん
『A Super Mom』

将来の私は、スーパーマム。私がお母さんになったら、子どものおねがいを何でも聞いてあげる、すごいお母さんになります。けれど、私のお母さんは、私の言うことをぜんぜん聞いてくれません。その理由について発表しました。



交野小学校 4年 藤井 陽穂 さん

『私のゆめ』

私は歌が大好きです。大好きな歌のことやどんな歌を作りたいかを伝えました。最後には、弟と一緒に作った曲を発表しました。



中学生の部

関西創価中学校 3年 柄山 康代 さん

3年 野村 杏 さん

『Diversity we think of 私たちが考える多様性』

私たちの中で一人たりとも同じ人が存在しないのはなぜでしょう？振る舞いや態度などは人と同じでないといけないのでしょうか？多様性について、私たちが考えたことを伝えました。



第一中学校 2年 川崎 由菜 さん

2年 橋本 彩音 さん

『思い出の宿泊学習』

宿泊学習の思い出について伝えます。カヌーやヨシ笛作り、外来魚釣りなどの活動や学年レクのことなど、特に心に残っていることについて伝えました。



第四中学校 2年 田中 瑠之助 さん

『MY SOCCER ROAD』

僕はサッカーが好きです。中学校では、サッカークラブに入っています。チームメートのことや練習のことなど、クラブ活動について伝えました。



第一中学校 1年 宮本 津嘉 さん

1年 和田 倭太郎 さん

『私たちの生活に欠かせない犬』

犬は私たちにとって欠かせない存在になっています。犬は私たちを癒すだけでなく、盲導犬のように目の不自由な人に付き添ったり、警察犬のように事件現場で活躍したりしています。犬の大切さを伝えるために、調べたことを発表しました。



関西創価中学校 3年 武田 怜子 さん
3年 三木 陽依奈 さん

『The necessity of art 芸術の必要性』

芸術はなぜ世の中に存在しているのでしょうか？
一種の娯楽ともいえる芸術文化が必要となってきた時代
背景は何でしょうか？私たちは芸術のおかげで何を
得られているのでしょうか？学校生活をもとに考えた
ことを伝えました。



第二中学校 2年 藤塚 絢音 さん
2年 元山 のん さん

『学校あるある』

みなさんが少しでも笑ってくれるような「学校あるある」を伝えました。発表を聞いて「あるある～」と言ってもらえるよう全力で頑張りました。



第三中学校 2年 石井 優悟 さん
2年 田和 大育 さん

『日本のアニメについて』

国内のみならず、世界でも人気の高い日本のアニメについて伝えました。日本のアニメに対する人々の評価や、私たちのアニメに対する考えなど、想いを語りました。



第三中学校 2年 森本 一生 さん
2年 脇野 悠介 さん

『「たけのこの里」VS「きのこの山」』

日本にはたくさんおいしいお菓子がありますが、その中でも特に人気のあるお菓子があります。そのお菓子について調べたことをもとに発表しました。



第二中学校 2年 近藤 愛梨 さん（当日欠席）
（発表予定だった内容）

『性別について』

私が普段から思っている性別の差別について、伝えたいことがあります。LGBTQだけでなく、性別にはたくさんの種類があり、そのことを打ち明けただけで誹謗中傷を受け悩んでいる人はたくさんいます。私はその人たちを救いたいです。



表彰

市長賞

小学生の部 清水 舞莉 さん（星田小学校）



中学生の部 武田 怜子 さん（関西創価中学校）

三木 陽依奈 さん（関西創価中学校）



教育長賞

小学生の部 山本 菜央 さん（妙見坂小学校）



中学生の部 森本 一生 さん（第三中学校）

脇野 悠介 さん（第三中学校）



審査員特別賞

小学生の部 高林 遥 さん（旭小学校）



中学生の部 石井 優悟 さん（第三中学校）

田和 大育 さん（第三中学校）



関西外国語大学 西村 孝彦 教授よりご講評をいただきました

西村教授からは、どのプレゼンテーションも、音楽や歌、ジェスチャー、ダンスなどの工夫が見られ、身体全体で表現できていて、一人ひとりの思いや考えが伝わってきたことや、全員に賞をあげたいくらい、どれもすばらしいプレゼンテーションであったことを評価していただきました。

また、その時々でのシチュエーションに応じて、どんなことを相手に伝えるのか、自分で考え、判断して伝えていくという経験を積み重ねることが大事であること、自分の興味・関心を大切に、自分らしさをもって表現していくことが大事であることをお話いただきました。

さらに、英語の学習に取り組んでいく参加者に対して、言葉から連想される映像を頭に描きながら英語を使っていくと英語力を上げることができること、自分のまわりの人やもの等を大切にしながらGlocal（グローバルな視点とローカルな視点）に物事を考えていくようにすること等のアドバイスのほか、英語をコミュニケーションのツールとして活用し、自分の考えをもっと磨いてほしいというエールが送られました。

